

(健Ⅱ238F)
令和2年8月5日

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
釜 菫 敏

組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
「ヘプタバックス-Ⅱ水性懸濁注シリンジ0.25mL」の供給再開について

組換え沈降B型肝炎ワクチン（B肝ワクチン）に関して、令和2年（2020年）7月末にMSD社の0.25mLシリンジ製剤（ヘプタバックス-Ⅱ水性懸濁注シリンジ0.25mL）の供給が再開される見込みとなったことにつきましては、令和2年4月6日付け（健Ⅱ15F）をもってご連絡申し上げました。

今般、本年7月17日よりヘプタバックス-Ⅱ水性懸濁注シリンジ0.25mLの供給が再開された旨、厚生労働省より各都道府県等衛生主管部（局）長あて別添の通知がなされ、本会に対しても周知方依頼がありましたのでご連絡申し上げます。

なお、B型肝炎ワクチンを国内供給するもう1社であるKMバイオロジクス社（KMバイオ社）においては、本年度中は引き続き0.5mLバイアル製剤（ビームゲン注0.5mL）のみが供給される予定であるとして、B型肝炎ワクチンの効率的な活用及び円滑な流通のため、安定供給対策について、卸売販売業者及び医療機関に対し、引き続き下記の対応への協力を求めています。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただき、管下郡市区医師会、関係医療機関等への周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

記

<卸売販売業者>

- ・自社と取引実績がない医療機関や新規開設医療機関から発注があった場合には、取引実績がないことを理由に不利になることのないよう引き続き配慮すること

<医療機関>

- ・必要量に見合う量のワクチンを購入すること
- ・0.25mLを注射する場合には、0.25mL製剤の確保ができる時には0.25mL製剤の使用を検討いただくが、ビームゲン注0.5mLで0.25mLを注射する場合には、一度針を

刺したものは 24 時間以内に使用する等の注意事項を遵守した上で、可能な限り 2 回使用するよう努めること

※MSD社のヘプタボックス-II (0.5mL バイアル製剤) は、一度針をさしたものの残液は速やかに処分すること

- 3回接種を同一製剤で行うことが望ましいが、1歳未満児を対象として、KMバイオ社とMSD社製のワクチンを組み合わせて接種した場合の互換性は確認されていることを踏まえて、ワクチンを選択すること

事務連絡
令和2年 7月29日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康局健康課

組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
「ヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ0.25mL」の供給再開について
（更新情報）

標記について、今般、別添のとおり、都道府県衛生主管部（局）宛てに事務連絡を発出したところでは、

関係各位におかれましては、別添について、貴管下の会員各位に対し周知するとともに、ワクチンの円滑な流通について、関係者との連携に努めていただくようお願いします。

事 務 連 絡

令和2年 7月29日

各都道府県衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局健康課

組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
「ヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.25mL」の供給再開について
（更新情報）

組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）（以下「B肝ワクチン」という。）の供給の現状等、安定供給対策については、「組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）の安定供給に係る対応について（更新情報）」（令和元年12月26日付事務連絡）及び「組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）「ヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.25mL」の供給再開時期について（更新情報）」（令和2年4月2日付事務連絡）においてお示したところです。

今般、ヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.25mL が令和2年7月17日から供給再開されましたので、お知らせします。

なお、KMバイオロジクス社が供給するB肝ワクチンは、効率的に増産を行う観点から、0.5mLバイアル製剤（ビームゲン注 0.5mL）のみが供給されています。B肝ワクチンの効率的な活用及び円滑な流通に資するため、下記について十分に留意いただいた上で、安定供給対策について、引き続き、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

1. B肝ワクチンの供給の現状と今後の見込み

B肝ワクチンは、KMバイオロジクス社及びMSD社の2社が製造販売承認を受けており、両社の製品が国内市場に供給されています。

令和元年11月以降、MSD社のB肝ワクチンの供給が一時的に停止していましたが、今般MSD社のヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.25mL の供給が再開されました。なお、ヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.5mL については、供給再開に向けて準備を進めているところです。

また、KMバイオロジクス社のB肝ワクチンについて、本年度中は引き続きビームゲン注 0.5mL のみが供給される予定で、ビームゲン注 0.25mL については供給再開に向けて準備を進めているところです。

ヘプタボックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.25mL の供給再開前と供給再開後の供給実績、及び供給見込みを以下に示します。なお、供給実績は、ビームゲン注 0.5mL がすべて 0.25mL の用法で 2 回使用されたと仮定した場合の換算値として、平成 30 年は最大 401 万回接種相当、令和元年は最大 465 万回接種相当であったのに対して、令和 2 年は最大 590 万回接種相当となる見込みです。また、ビームゲン注 0.5mL について、本年 1 月から 6 月までの製造実績は約 153 万本でしたが、卸への供給実績が約 112 万本にとどまったことから、本年 6 月末時点の在庫は推計で約 83 万本となっています。さらに本年 7 月から 12 月にも約 100 万本の製造が予定されていることから、本年の 0.5mL 製剤の合計供給見込みは本年 4 月時点から変わらない 250 万本となっています。ビームゲン注 0.5mL を効率的に活用し、需要に大きな変動がなければ、B 肝ワクチンが不足する懸念はないものと考えられます。需要に大きな変動を生じさせないよう、ビームゲン注 0.5mL を 0.25mL の用法で使用する場合は、引き続き可能な限り 2 回使用するようお願いします。

【令和 2 年 7 月時点】

卸への供給実績 又は供給見込み	0.5mL	0.5mL	0.25mL	0.25mL
	バイアル製剤 (KMB 社)	シリンジ製剤 (MSD 社)	バイアル製剤 (KMB 社)	シリンジ製剤 (MSD 社)
令和 2 年 1 月～3 月	57.0 万本	0 万本	0 万本	0 万本
令和 2 年 4 月～6 月	54.6 万本	0 万本	0 万本	0 万本
令和 2 年 7 月～9 月	69.2 万本	0 万本	0 万本	45.0 万本
令和 2 年 10 月～12 月	69.2 万本	0 万本	0 万本	45.0 万本
	0.5mL 製剤合計		0.25mL 製剤合計	
令和 2 年 1 月～12 月 供給見込み	250.0 万本 (250 万～500 万回接種相当)		90.0 万本 (90 万回接種相当)	
	340.0 万本 (340 万 ^{※1} ～590 万 ^{※2} 回接種相当)			
令和 2 年 1 月～6 月 供給実績	111.6 万本 (112 万～223 万回接種相当)		0 本	
	111.6 万本 (112 万 ^{※1} ～223 万 ^{※2} 回接種相当)			
(参考) 平成 31 年 (令和元年) 供給実績	178.6 万本 (179 万～267 万回接種相当)		198.0 万本 (198 万回接種相当)	
	376.6 万本 (377 万 ^{※1} ～465 ^{※2} 万回接種相当)			
(参考) 平成 30 年 供給実績	296.8 万本 (297 万～336 万回接種相当)		64.5 万本 (65 万回接種相当)	
	361.3 万本 (362 万 ^{※1} ～401 ^{※2} 万回接種相当)			

※1 ビームゲン注 0.5mL を全て 1 回使用した場合の値

※2 ビームゲン注 0.5mL を全て 0.25mL 用と仮定して、2 回使用した場合の換算値

2. B肝ワクチンの安定供給対策について

(1) 卸売販売業者の対応

ヘプタックス-II水性懸濁注シリンジでは 0.25mL 製剤のみが供給再開されたこと及びビームゲン注では 0.5mL バイアル製剤のみが供給されていることから、卸売販売業者は、過去に他社と取引していて自社と取引実績がない医療機関や、新規開設の医療機関から発注があった場合に、取引実績がないことを理由に不利な扱いになることがないように、引き続き配慮をお願いします。

(2) 医療機関の対応

① 必要量に見合う量のワクチンを購入いただくようお願いします。

② 0.25mL を注射する際に、0.25mL 製剤の確保ができる時には 0.25mL 製剤の使用をご検討いただきますが、ビームゲン注 0.5mL で 0.25mL を注射する場合には一度針を刺したものは 24 時間以内に使用する等の添付文書の注意事項を遵守した上で、可能な限り、2回使用するようお願いします。

なお、MSD社のヘプタックス-II (0.5mL バイアル製剤) については、一度針をさしたものの残液は速やかに処分してください。

③ 3回の接種を同一の製剤で行うことが望ましいと考えられますが、1歳未満児を対象として、KMバイオロジクス社製のワクチン(ビームゲン注)とMSD社製のワクチン(ヘプタックス-II)を組み合わせる場合の互換性は確認されていること※を踏まえて、ワクチンを選択してください。

※ 第21回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会
(令和元年8月7日)資料2